

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）

総括研究報告書

若年性認知症の病態・支援等に関する実態把握と適切な治療及び支援につなぐ
プロセスの構築に資する研究（23GB1002）

研究代表者 鷲見 幸彦 認知症介護研究・研修大府センター センター長

【研究要旨】

若年性認知症（YOD）は65歳以上の高齢者認知症に比べ実数は少ないが、この年代で発症することによる医療上、介護上の特性や課題が存在する。医療上の課題について昨年度から継続して認知症疾患医療センターへの調査を行った。検査・診療体制に関しては令和5年度とほぼ同様であった。令和6年度はレカネマブによる治療についても調査を行った。診断後支援に関しては多くの認知症疾患医療センターで就労支援や障害福祉サービスに関する支援は少ないものの、多様な支援が行われていることが明らかとなった。YOD診断後支援の在り方に関する文献レビューを行い、「若年性認知症の診断後支援ガイド（仮称）」の骨子案を作成した。支援の課題については全国の就労継続支援事業所、認知症地域支援推進員、若年性認知症支援コーディネーター（支援C）を対象にアンケート調査を行った。YODの人が自分らしく地域で生活し続けるためには、社会全体でのYODの認知度向上とともに、ワンストップの相談窓口（＝支援C）を明確にし、支援Cと医療・福祉・労働など多職種による連携体制の強化と、支援の継続性・専門性の確保が求められる。就労については従業員にYODが疑われる状況が生じた場合、企業内では対応経験がないことが想定されるため、普段から相談できる体制等連携した取り組みが望まれる。また、人事管理者及び衛生管理者を対象とした具体的な事例の提示が、研修の拡大につながると考える。当事者・家族に対する診断時の主治医からの説明においては、診断・治療に加えて日常生活についての説明を希望していた。当事者家族の状況を理解し支援することが望まれる。情報提供に関する検討では若年性認知症本人・家族の情報ニーズは高く、診断前後で求められる情報が異なることが示唆された。特に、診断直後は病状の情報、診断後は生活支援に関する具体的な情報が必要とされていた。本人、家族の情報ニーズからは、両群とも医療や介護、社会的資源に関する情報ニーズが高く、情報提供支援の必要性が示唆された。

【研究分担者】

栗田主一 東京都健康長寿医療センター・認知症未来社会創造センター センター長
武田章敬 国立長寿医療研究センター もの忘れセンター長
齊藤千晶 認知症介護研究・研修大府センター 研究主幹
表 志津子 金沢大学医薬保健研究域保健学系 教授
李 相侖 認知症介護研究・研修大府センター 研究部長

A. 目的

若年性認知症は 65 歳未満で発症する認知症の総称で、2017 年の調査では全国における若年性認知症者数は、3.57 万人と推計されている。65 歳以上の高齢者認知症に比べ実数は少ないが、この年代で発症することによる医療上、介護上の特性や課題が存在する。医療上は発見、診断の遅れ、初診後の支援体制の不備があげられる。異常には気が付くが認知症としての特徴に乏しく、初期には認知症と診断されにくい。さらに発見・診断の遅れや社会資源の利用が進まない背景には本人家族の診断への不安や受け入れの困難さ、就労や家事育児の継続が困難になることによる生活の破綻があり、経済的、心理的な負担が大きい。認知症施策推進大綱においてはワンストップで相談ができる、若年性認知症支援コーディネーター（以下支援コーディネーター）を全都道府県、指定都市に設置し支援を進めており、若年性認知症のステージに対応した診断治療及び支援が適時適切に行われていると考えられるが、その実態調査は十分でない。本研究では若年性認知症のステージに応じた医療提供、支援体制に関する実態調査を行い、切れ目のない支援体制の構築につながるデータを提供する。またそのためには継続的に患者の状況を把握し、一方では患者・家族の情報源となるような登録・情報提供システムの構築が必要となる。

B. 研究方法

（１）若年性認知症における医療上の課題に対する調査

研究分担者 武田は 1 年目で全国の認知症疾患医療センターにおける若年性認知症

の受診、診断、治療、診断後支援、継続診療等の状況を明らかにするための調査票を作成認知症疾患医療センターの医師、精神保健福祉士、研究者、行政職等とともに調査票案を作成し、一部地域の認知症疾患医療センターを対象として予備的な調査を行い、確定させた。（研究 1）。この質問票を用いて全国の認知症疾患医療センターを対象に郵送法による無記名自記式質問紙調査を行った（研究 2）。

研究分担者 栗田は令和 6 年度は、令和 5 年度に全国の認知症疾患医療センターを対象に実施した実態調査の際に使用した 6 領域 24 項目のチェックリスト調査結果を踏まえて若年性認知症診断後支援の在り方に関する文献レビューを行い、「若年性認知症の診断後支援ガイド（仮称）」の骨子案を作成した。

研究方法：2 つの Research Question(RQ): 「RQ1: 年齢によらず、認知症の診断後支援として実施されるべきことは何か」「RQ2: 若年性認知症の診断後支援として実施されるべきことは何か」を立てて、PubMed と医学中央雑誌（医中誌）を用いて文献検索を行い、RQ に関する論文を選定して、文献レビューを行った。

（２）若年性認知症の介護支援での課題に対する調査

研究分担者 齊藤は、若年性認知症（YOD）の人のニーズに合わせた必要なサービスを明らかにするとともに、若年性認知症支援コーディネーター（支援 C）を含む既存サービスの有効な調整方法を提示することを目的とする。今回は全国の就労継続支援事業所（事業所）、認知症地域支援推

進員（推進員）、支援 C を対象にアンケート調査を実施した。各調査の分析対象は【調査 1】事業所 21,932 か所から 1 次調査 3,100 名（有効回収率 14.5%）および 2 次調査 272 名（有効回収率 63.6%）、【調査 2】推進員 1,905 名（石川県の 6 か所、推進員の配置のない 19 市を除く）から、718 名（有効回収率 37.7%）、【調査 3】支援 C 159 名から 82 名（有効回収率 51.6%）とした。

研究分担者 表は企業における若年性認知症の就労支援に関する支援体制の実態、及び当事者・家族における診断前後からその後の相談支援や経済的負担の実態について明らかにすることを目的とした。令和 6 年度、企業へは Web 調査により、若年性認知症に関する企業の研修や支援体制、及び若年性認知症の従業員について、主治医との連携、職場内・外の支援、事業場内の支援体制や就労継続等を調査した。当事者家族へは、郵送調査により、診断からサービス利用までの期間に焦点をあて、受診に際しての相談、主治医からの説明や相談支援の実態等を調査した。

（3）若年性認知症の人と家族を支える情報提供・登録システムの検討

研究代表者の驚見は研究の統括、倫理委員会への申請を行うとともに**研究分担者の李**と共同して若年性認知症の人および家族への情報提供システムの検討を行った。認知症の症状や医療、介護等の社会資源に関する情報は増加しているものの、若年性認知症の人が必要とする情報に関しては知見が乏しい。本研究では、若年性認知症本人や家族が求める情報の種類、情報収集のタイミングや方法を明らかにし、本人と家族等間における情報ニーズの比較を行った。研

究方法：就労継続支援事業所や認知症地域支援推進員、若年性認知症支援コーディネーターの合計 2,251 か所に調査票を送付し、現在支援中の本人又は家族への配布を依頼した。調査項目は、先行研究を参考に、困ったことや、医療、介護、経済的支援、社会資源、健康等 13 種類の情報について、情報収集の時期（診断前・直後、進行後、時期に関係なく）、収集方法を尋ねた。収集方法は、若年性認知症支援コーディネーター、知人、医療、行政機関、チラシ、書籍、インターネットとした。

（倫理面での配慮）

I. 研究の対象とする個人の人權擁護

本研究の実施にあたっては、ヘルシンキ宣言（2008 年 10 月）の精神を遵守し、かつ本研究実施計画書並びに「人を対象とする生命科学、臨床研究に関する倫理指針」（令和 3 年 3 月 23 日）に遵守して実施する。

II. 研究の対象となる者（本人又は家族）の理解と同意

本研究の調査対象者には調査票にこの研究への参加の意思を確認する項目を用意するとともに、調査の内容説明書を送付する。内容説明書には、次の内容を含むものとする：研究の目的および意義、研究期間、調査内容、選定された理由、本研究に参加する場合の費用、予測されるリスク及び利益、本研究への参加に対する自由、同意しないこと又は同意を撤回することによる不利益な取扱いを受けない旨、情報の公開方法、個人情報の取扱い、情報の保管および廃棄の方法、利益相反、連絡先と相談窓口、将来の研究のためのデータ活用の可能性について。同意の取得にあたっては、

事前に社会福祉法人仁至会の倫理・利益相反委員会で承認の得られたアンケート調査用紙と内容説明書を対象者に郵送し、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンスに基づき、確認欄へのチェックおよび回答と返送をもって適切な同意を得たものとする。対象者の同意に影響を及ぼすと考えられる情報が新たに得られた場合や、対象者の同意に影響を及ぼすような実施計画等の変更が行われる場合は、速やかに対象者に情報提供する。またヒアリング調査の際には本研究で新しく取得する情報に要配慮個人情報が含まれる。そのため、インフォームド・コンセントのもとに、協力に同意した者のみを対象に行い、口頭及び書面にて同意を得る。また、同意はいつでも任意に撤回できる旨を伝える。

Ⅲ. 研究によって生ずる個人への不利益並びに危険性と医学上の貢献の予測

調査研究が中心であり、個人への不利益はなく侵襲もないため大きな不利益、危険性はないと考えられるが、研究に参加することにより本人、家族に参加するための時間をとっていただくことが負担となる。

研究結果

研究代表者 鷲見：2024年3月7日に令和5年（2023年）度第3回班会議、2024年5月31日に令和6年度（2024年）第1回班会議を、12月3日に第2回班会議を2025年3月7日に第3回班会議を開催した。この間、新しい調査票を追加した研究計画書を作成し2024年8月社会福祉法人仁至会倫理・利益相反委員会に申請。8月30日に承認を受けた。研究分担者李 相倫

とともに、若年性認知症の人の情報提供システムの検討を行った。

研究分担者 武田：レカネマブによる治療が初回投与から可能と回答した医療機関は33%、継続投与のみ可能と回答した医療機関は25%であった。令和6年9月30日までにレカネマブによる治療を開始した患者数は0人が最も多く、次いで1-5人、6-10人の順であった。そのうち65歳未満の患者数も0人が最も多く、1-5人、6-10人と続いた。レカネマブ治療に関わる他の医療機関との連携状況については「レカネマブ治療可能な医療機関への紹介」が最も多く、「レカネマブ治療を行う他の医療機関と連携している」の回答が次に多かった。レカネマブ治療と経済支援制度の利用に関する方針としては「自立支援医療制度の利用を勧める」の回答が最多であり、「レカネマブ適応者は対象としていない」の回答が次に多かった。レカネマブ治療中の患者およびレカネマブの対象とならない患者への支援では、就労支援や福祉的就労、障害福祉サービスの利用に関する支援やリハビリテーションを行っていると回答した医療機関が少なかった。

研究分担者 栗田：RQ1については、PubMedで17件、医中誌で5件（原著論文）の文献がヒットした。これらのうち、認知症の診断後支援全般のモデルを考える上で有用と思われる論文12報を採用して文献レビューを行い、RQに対する回答を文書化した。RQ2については、PubMedでは24件がヒットし、このうち20件を採用した。医中誌で12件がヒットし、このうち7件を採用した。PubMed検索で採用された論文の内容は、1) 今日の若年性認知症診断後支援の問題点を指摘するもの、2) 診断後支援全般の在り方

に関するもの、3) 家族の情動的サポートと心理的サポートに関するもの、4) 就労支援と経済的支援に関するもの、5) 本人の心理的サポートに関するものに大別された。また、医中誌検索で採用された論文の内容は、1) 全国レベルの実態調査から得られた若年性認知症の本人・家族のニーズに関するもの、2) 全国の認知症疾患医療センターで実施されている若年性認知症診断後支援の内容を把握したもの、3) 若年性認知症の本人・家族のヒアリング調査から得られた本人・家族の支援ニーズに関するもの、4) 一医療機関での経験から把握された必要とされる診断後支援に内容に関するものに大別された。

研究分担者 齊藤：結果：【調査1】B型事業所での受け入れが多かったが、実際にはYODの人の利用申し出自体が少なかった。また、支援Cの認知度は低いが、連携している場合、本人や家族等へ具体的な成果があった。介護保険サービスとの併用利用では基本的ADL低下が主要因であった。【調査2】支援Cの認知度は高いが、個別ケース以外での連携は少なく物理的距離が連携の障壁であった。個別支援では連携により本人や家族等へ具体的な成果があった。【調査3】個別相談や周知・啓発などの多岐に渡る業務を担う一方で、産業医や企業への周知の難しさや、地域住民・関係機関への認知度の低さなどの課題があった。支援Cも併用利用に関与し、その理由は事業所と同様であった。調整先の専門職のYODの理解や対応が十分でない場合、支援の継続が求められた。**研究分担者 表：**企業への調査は806名を分析対象とした。回答者は、「人事担当者」80.5%が最も多く、業種は「製造業」が25.9%、

「保健衛生業」18.2%の順に多かった。従業員が心身の変調をきたした場合に「人事部門と産業保健スタッフが連携して対応している」と回答した企業は64.1%、「企業内で若年性認知症に関する研修を実施」した経験のある企業は2.1%であった。38社が若年性認知症従業員の経験があった。当事者家族への調査は、144名を分析対象とした。診断時の主治医からの説明においては、「診断・治療に関する説明」は8割以上の者があったと回答した。一方、「日常生活上の留意点」では5割、「利用可能な制度に関して」は3割であった。説明に対して、【診断以外に説明がなく見通しがもてない】【診断後の生活への提案がほしい】、【今後どうしてよいかわからない】という意見があった。

研究分担者 李：回収数は219件で、有効回答数は148件であった。回答者は本人が26.1%、配偶者が50.7%であった。困ったこととしては、認知症の進行、経済状況への不安、社会参加の場の不足があげられた。情報収集の経験からは、全13種類の情報において6割以上が情報収集の経験があり、病気の進行、治療方法、初期症状は上位3位であった。情報収集のタイミングは、症状や疾患の情報は診断直後、初期症状や専門医の情報は診断前も3割以上を示した。介護サービス、経済的な支援、就労相談は、診断後や進行後の回答が多かった。収集方法は、症状・疾患は医療機関やweb、介護や社会的資源は行政機関、就労相談や地域資源は若年性認知症支援コーディネーターからも取得が多かった。健康情報はwebでお出かけ場所等の情報取得の傾向が見られた。本人と家族・その他の情報ニーズにおいて、初期症状、介護保険サービス、全般的な介護総合窓

口、介護方法、家族会に関する情報は両群で有意な差が見られた。社会資源などの項目における両群の差は認められなかった。

C. 考察

研究分担者 武田：認知症疾患医療センターにおける検査・診療体制に関しては令和5年度とほぼ同様であった。令和6年度はレカネマブによる治療についても調査を行ったが、初回投与から可能と答えた医療機関が33%、継続投与のみ可能と回答した医療機関が25%であった。診断後支援に関しては多くの認知症疾患医療センターで就労支援や障害福祉サービスに関する支援は少ないものの、多様な支援が行われていることが明らかとなった。

研究分担者栗田：わが国の認知症疾患医療センターにおける若年性認知症診断後支援の実態調査、個別事例の分析、国内外の文献レビューの結果を踏まえて、「認知症疾患医療センターにおける若年性認知症診断後支援ガイド」の骨子案を作成した。この骨子案を踏まえて、令和7年度は、コンセンサス・パネルを設置し、この領域の専門家や関係者の意見を聴取しながら、エキスパート・コンセンサス・ガイドとしての手引きの最終版を完成させる予定である。

研究分担者 齊藤：結果を踏まえ、今後必要なことを整理すると【調査1】①若年性認知症に関する正確な情報の周知および相談機関の認知度の向上、②支援コーディネーターの役割・配置先・連携方法の理解促進、③研修機会の提供を通じた職員の対応力強化、④障害福祉と介護保険制度の円滑な連携体制の構築があり、YODの人が安心して就労継続支援事業所を利用できるよう、情報提供、支援体制の整備、制度間の連携強化が

求められた。【調査2】①地理的要因による連携の困難さへの対応として、支援Cの配置や連携方法の検討、②医療・介護に限らず、労働・障害などの他分野を含めた包括的な連携体制の整備、③早期からの制度・サービスの活用促進できるよう、都道府県・指定都市の後方支援のあり方も検討【調査3】①関係機関との連携強化、②地域社会への啓発活動の推進、③業務負担の軽減と支援体制の整備。

研究分担者 表：症状に応じた適切な職場環境の調整や業務内容の見直しが必要となるが、多くの事業所では具体的な対応策の知識や経験が不足していることが本研究から示唆された。早期発見・適切な対応のための予備的知識を得る必要性を周知すること、具体的な事例の提示が、研修実施につながると考える。また、診断時の支援については、主治医から、診断・治療への説明に加えて、今後の見通しが持てるような生活への具体的な提案の必要性が示唆された。

研究分担者 李：診断前後を通じて医療に関する情報、診断後は介護や経済的支援に関する情報を必要としていることが明らかになった。情報の収集方法は、webが幅広く活用されている一方で、専門家や行政機関からの情報提供も求められていた。本人、家族等で情報ニーズの違いはあるものの、社会資源等においては両群ともニーズが高かった。若年性認知症の人に対する支援において、多様な情報を整備し、ニーズに合わせた適切な時期の情報提供体制の重要性が示唆された。

E. 結論

(1) 若年性認知症における医療上の課題に対する調査では、現在、認知症疾患医療

センターで実施されている若年性認知症の診療および新たな抗アルツハイマー病薬による治療の現状が明らかになった。抗アルツハイマー病薬の使用が可能となつてからまだ1年の経過のため、今後も調査を継続して行う必要があると思われる。またわが国の認知症疾患医療センターにおける若年性認知症診断後支援の実態調査、個別事例の分析、国内外の文献レビューの結果を踏まえて、「認知症疾患医療センターにおける若年性認知症診断後支援ガイド」の骨子案を作成した。この骨子案を踏まえて、令和7年度は、コンセンサス・パネルを設置し、この領域の専門家や関係者の意見を聴取しながら、エキスパート・コンセンサス・ガイドとしての手引きの最終版を完成させる予定である。

(2) 若年性認知症の介護支援での課題に対する調査では、YODの人が自分らしく地域で生活し続けるためには、社会全体でのYODの認知度向上とともに、ワンストップとした相談窓口(=支援C)を明確にし、支援Cと医療・福祉・労働など多職種による連携体制の強化と、支援の継続性・専門性の確保が求められる。また従業員に若年性認知症が疑われる状況が生じた場合、企業内では対応経験がないことが想定されるため、普段から相談できる体制等連携した取り組みが望まれる。また、人事管理者及び衛生管理者を対象とした具体的な事例の提示が、研修の拡大につながると考える。当事者・家族に対する診断時の主治医からの説明においては、診断・治療に加えて日常生活についての説明を希望していた。説明があった内容については8割以上の者が理解できたと回答していること

から、当事者家族の状況を理解し支援することが望まれる。

今後は結果を詳細に分析し、企業・家族の現状に基づいた支援について提言する。

(3) 若年性認知症の人と家族を支える情報提供に関する検討では若年性認知症本人・家族の情報ニーズは高く、診断前後で求められる情報が異なることが示唆された。特に、診断直後は病状の情報、診断後は生活支援に関する具体的な情報が必要とされていた。本人、家族の情報ニーズからは、両群とも医療や介護、社会的資源に関する情報ニーズが高く、情報提供支援の必要性が示唆された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

鷺見幸彦

【鷺見幸彦】

- 1) Hiraga K, Hattori M, Satake Y, Tamakoshi D, Fukushima T, Uematsu T, Tsuboi T, Sato M, Yokoi K, Suzuki K, Arahata Y, Washimi Y, Hori A, Yamamoto M, Shimizu H, Wakai M, Tatebe H, Tokuda T, Nakamura A, Niida S, Katsuno M Plasma biomarkers of neurodegeneration in patients and high risk subjects with Lewy body disease. NPJ Parkinsons Dis. 2024 Jul 31;10(1):135. doi:10.1038/s41531-024-00745-8.
- 2) 田中真弥, 鷺見幸彦. 認知症発症者の就労. 安全と健康. 2024; 75(7):21-25
- 3) Ikuko Aiba, Yuichi Hayashi,

++++Takayoshi Shimohata, Mari
Yoshida, Yuko Saito, Koichi
Wakabayashi, Takashi Komori, Masato
Hasegawa, Takeshi Ikeuchi, Aya M.
Tokumaru, Keita Sakurai, Shigeo
Murayama, Kazuko Hasegawa, Toshiki
Uchihara, Yasuko Toyoshima, Yufuko
Saito, Ichiro Yabe, Satoshi Tanikawa,
Keizo Sugaya, Kentaro Hayashi,
Terunori Sano, Masaki Takao, Motoko
Sakai, Harutoshi Fujimura, Hiroshi
Takigawa, Tadashi Adachi, Ritsuko
Hanajima, Osamu Yokota, Tomoko Miki,
Yasushi Iwasaki, Michio Kobayashi,
Nobutaka Arai, Takuya Ohkubo, Takanori
Yokota, Keiko Mori, Masumi Ito, Chiho
Ishida, Masaharu Tanaka, Jiro Idezuka,
Masato Kanazawa, Kenju Aoki, Masashi
Aoki, Takafumi Hasegawa, Hirohisa
Watanabe, Atsushi Hashizume, Hisayoshi
Niwa, Keizo Yasui, Keita Ito, O
Yukihiko Washimi, Eiichiro Mukai,
Akatsuki Kubota, Tatsushi Toda and
Kenji Nakashima; J-VAC study group
Clinical course of pathologically
confirmed corticobasal degeneration
and corticobasal Syndrome. BRAIN
COMMUNICATIONS 2023: 1-19
<https://doi.org/10.1093/braincomms/fca0296>

- 4) O 鷺見幸彦. 認知症に対する地域連携・多職種連携. 脳神経内科 98(2), 234-239, 2023
- 5) O 鷺見幸彦. 若年性認知症の現状と課題. 地域保健 54(2), 8-10, 2023
- 6) O 鷺見幸彦, 進藤由美. 認知症の地域

包括ケア—認知症ケアパスの活用—. 医学のあゆみ 287(13), 1106-1110, 2023

- 7) Kuratsubo I, Nagata R, Murotani K, Ito K, Washimi Y. A new educational tool for neuropsychological test raters in the dementia field: A Delphi study. Psychogeriatrics. 2022, 22(11):802-808. <https://doi.org/10.1111/psyg.12886>
- 8) Nihashi T, Sakurai K, Kato T, Iwata K, Kimura Y, Ikenuma H, Suzuki K, Yamaoka A, Takeda A, Arahata OY, Washimi Y, Bundo M, Sakurai T, Okamura N, Yanai K, Ito K, Nakamura A, MULNIAD STUDY GROUP. Patterns of distribution of 18F-THK5351 positron emission tomography in Alzheimer's Disease continuum. J Alzheimers Dis. 2022;85(1):223-234. doi: 10.3233/JAD-215024.
- 9) Hirashiki A, Shimizu A, Suzuki N, Nomoto K, Kokubo M, Sugimoto T, Hashimoto K, Sato K, Sakurai T, Murohara T, Washimi Y, Arai H. Exercise Capacity and Frailty Are Associated with Cerebral White Matter Hyperintensity in Older Adults with Cardiovascular Disease. Int Heart J. 2022, 63(1):77-84

【栗田主一】

- 1) Kikuchi K, Ooguchi T, Ikeuchi T, Ito K, Awata S. Current status and issues of missing older persons with dementia living alone in Japan. Geriatr Gerontol Int. 2022

- Aug;22(8):684–686. doi:
10.1111/ggi.14434. Epub 2022 Jul 13.
PMID:35830971.
- 2)Miyamae F, Taga T, Okamura T, ○
Awata S. Toward a society where people
with dementia 'living alone' or 'being
a minority group' can live well.
Psychogeriatrics. 2022 Jul;22(4):586–
587. doi: 10.1111/psyg.12836. Epub
2022 Apr 21. PMID: 35451143.
- 3)Suzuki H, Sakuma N, Kobayashi M,
Ogawa S, Inagaki H, Eda Hiro A, Ura C,
Sugiyama M, Miyamae F, Watanabe Y,
Shinkai S, ○Awata S. Normative Data
of the Trail Making Test Among Urban
Community-Dwelling Older Adults in
Japan. Front Aging Neurosci. 2022 May
25;14:832158. doi:
10.3389/fnagi.2022.832158. PMID:
35693348; PMCID: PMC9175082.
- 4)Uchida S, Shimada C, Sakuma N,
Kagitani F, Kan A, ○Awata S.
Olfactory function and discrimination
ability in the elderly: a pilot study.
J Physiol Sci. 2022 Apr 1;72(1):8.
doi: 10.1186/s12576-022-00832-6. PMID:
35365090.
- 5)Ito K, Okamura T, Tsuda S, ○Awata
S. Diogenes syndrome in a 10-year
retrospective observational study: An
elderly case series in Tokyo. Int J
Geriatr Psychiatry. 2022 Jan;37(1).
doi: 10.1002/gps.5635. Epub 2021 Oct
9. PMID: 34601744.
- 6)Okamura T, Ura C, Kugimiya Y,
Okamura M, Yamamura M, Okado H,
Sugiyama M, Inagaki H, Miyamae F,
Eda Hiro A, Taga T, Ito K, ○Awata S.
After 5 years, half of people with
cognitive impairment were no longer
living in the community: A community
observational survey. Int J Geriatr
Psychiatry. 2021 Dec;36(12):1970–1971.
doi: 10.1002/gps.5608. Epub 2021 Aug
14. PMID: 34392564.
- 7)Iwasaki M, Motokawa K, Watanabe Y,
Hayakawa M, Mikami Y, Shirobe M,
Inagaki H, Eda Hiro A, Ohara Y, Hirano
H, Shinkai S, ○Awata S. Nutritional
status and body composition in
cognitively impaired older persons
living alone: The Takashimadaira
study. PLoS One. 2021 Nov
23;16(11):e0260412. doi:
10.1371/journal.pone.0260412. PMID:
34813604; PMCID: PMC8610283.
- 8)Eda Hiro A, Okamura T, Motohashi Y,
Takahashi C, Meguro A, Sugiyama M,
Miyamae F, Taga T, Ura C, Nakayama R,
Yamashita M, ○Awata S. Severity of
Dementia Is Associated with Increased
Periodontal Inflamed Surface Area:
Home Visit Survey of People with
Cognitive Decline Living in the
Community. Int J Environ Res Public
Health. 2021 Nov 14;18(22):11961. doi:
10.3390/ijerph182211961.
PMID:34831719; PMCID: PMC8618461.
- 9)Ito K, Ogisawa F, Furuta K, ○Awata
S, Toba K. Development of a five-item
short-form version of the Dementia
Behavior Disturbance Scale. Geriatr

- Gerontol Int. 2021 Sep;21(9):870-871. doi: 10.1111/ggi.14234. Epub 2021 Jul 14. PMID:34263527.
- 10) Nakayama R, Sugiyama M, Ura C, Taga T, Tsuda S, Yamashita M, Miyamae F, Eda Hiro A, Inagaki H, Ogawa M, Okamura T, ○Awata S. The relationship between cognitive decline and well-being: investigation in older community-dwelling people with moderately impaired cognition. *Psychogeriatrics*. 2021 Sep;21(5):841-843. doi: 10.1111/psyg.12742. Epub 2021 Jul 13. PMID: 34258824.
- 11) Sakurai R, Kim Y, Inagaki H, Tokumaru AM, Sakurai K, Shimoji K, Kitamura A, Watanabe Y, Shinkai S, ○Awata S. MMSE Cutoff Discriminates Hippocampal Atrophy: Neural Evidence for the Cutoff of 24 Points. *J Am Geriatr Soc*. 2021 Mar;69(3):839-841. doi: 10.1111/jgs.17010. Epub 2021 Jan 8. PMID: 33417718.
- 12) Ura C, Okamura T, Sugiyama M, Miyamae F, Yamashita M, Nakayama R, Eda Hiro A, Taga T, Inagaki H, Ogawa M, ○Awata S. Living on the edge of the community: factors associated with discontinuation of community living among people with cognitive impairment. *BMC Geriatr*. 2021 Feb 19;21(1):131. doi:10.1186/s12877-021-02084-2. PMID: 33607947; PMCID: PMC7893898.
- 13) Deguchi N, Osuka Y, Kojima N, Motokawa K, Iwasaki M, Inagaki H, Miyamae F, Okamura T, Hirano H, ○Awata S, Sasai H. Questionnaire for Medical Checkup of Old-Old is non-inferior to the Kihon Checklist in screening frailty among independent older adults aged 75 years and older: The Itabashi Longitudinal Study on Aging. *Geriatr Gerontol Int*. 2023 Dec 12. doi: 10.1111/ggi.14759. Epub ahead of print. PMID: 38084382.
- 14) Ura C, Inagaki H, Sugiyama M, Miyamae F, Eda Hiro A, Ito K, Iwasaki M, Sasai H, Okamura T, Hirano H, ○Awata S. A neighbour to consult with is important in dementia-friendly communities: associated factors of self-efficacy allowing older adults to continue living alone in community settings. *Psychogeriatrics*. 2023 Dec 5. doi: 10.1111/psyg.13054. Epub ahead of print. PMID: 38050759.
- 15) Eda Hiro A, Okamura T, Arai T, Ikeuchi T, Ikeda M, Utsumi K, Ota H, Kakuma T, Kawakatsu S, Konagaya Y, Suzuki K, Tanimukai S, Miyanaga K, ○Awata S. What happens if your colleague was the first person to notice that you have young-onset dementia? *Geriatr Gerontol Int*. 2023 Nov 21. doi: 10.1111/ggi.14733. Epub ahead of print. PMID: 37990422.
- 16) Yamazaki S, Ura C, Inagaki H, Sugiyama M, Miyamae F, Eda Hiro A, Ito K, Iwasaki M, Sasai H, Okamura T, Hirano H, ○Awata S. Social isolation and well-being among families of

- middle-aged and older hikikomori people. *Psychogeriatrics*. 2023 Nov 6. doi: 10.1111/psyg.13042. Epub ahead of print. PMID: 37932240.
- 17) Katsumata Y, Toyoshima K, Tamura Y, Murao Y, Sato M, Watanabe S, Koderu R, Oba K, Ishikawa J, Chiba Y, OAwata S, Araki A. Categorization using the Dementia Assessment Sheet for Community-Based Integrated Care System 8-items (DASC-8) based on cognitive function and activities of daily living predicts frailty, disability and mortality in older adults. *Geriatr Gerontol Int*. 2023 Oct 23. doi: 10.1111/ggi.14715. Epub ahead of print. PMID: 37872859.
- 18) Kikuchi K, Ikeuchi T, OAwata S. A study on the incidence rate of missing persons with dementia living alone in Chiba prefecture, Japan. *Geriatr Gerontol Int*. 2023 Nov;23(11):890-891. doi: 10.1111/ggi.14695. Epub 2023 Oct 12. PMID: 37823231.
- 19) Abe T, Yamashiro D, Yamashita M, Ueda T, Suzuki H, Fujiwara Y, OAwata S, Toba K; IRIDE Cohort Study investigators. Assessments of cognitive function of older adults in community general support centers: The IRIDE cohort study. *Geriatr Gerontol Int*. 2023 Nov;23(11):887-888. doi: 10.1111/ggi.14677. Epub 2023 Sep 21. PMID: 37735093.
- 20) Ito K, Tsuda S, Yamashita M, Kikuchi K, Hatakeyama A, Ogisawa F, Furuta K, OAwata S. [The expected role of Dementia Support Doctors in dealing with complex cases of older people with dementia]. *Nihon Ronen Igakkai Zasshi*. 2023;60(3):251-260. Japanese. doi: 10.3143/geriatrics.60.251. PMID: 37730326.
- 21) Murayama H, Sugiyama M, Inagaki H, Ura C, Miyamae F, Eda Hiro A, Motokawa K, Okamura T, OAwata S. The Relationship Between Cognitive Decline and All-Cause Mortality Is Modified by Living Alone and a Small Social Network: A Paradox of Isolation. *J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci*. 2023 Nov 14;78(11):1927-1934. doi: 10.1093/geronb/gbad134. PMID: 37725961.
- 22) Okamura T, Taga T, Inagaki H, Miyamae F, Ura C, Sugiyama M, Eda Hiro A, Shirobe M, Motokawa K, Kojima N, Osuka Y, Iwasaki M, Sasai H, Hirano H, OAwata S. Barrier to sharing a dementia diagnosis with neighbors in Tokyo. *Geriatr Gerontol Int*. 2023 Oct;23(10):761-763. doi: 10.1111/ggi.14662. Epub 2023 Sep 11. PMID: 37691496.
- 23) Mitsutake S, Yano S, Ishizaki T, Furuta K, Hatakeyama A, Sugiyama M, OAwata S, Ito H, Toba K. Association of functional and cognitive impairment severity with discharge to long-term care facilities in older patients admitted to a general acute care

- hospital from home. *Arch Gerontol Geriatr.* 2023 Dec;115:105111. doi: 10.1016/j.archger.2023.105111. Epub 2023 Jun 26. PMID: 37421690.
- 24)Ohta T, Sasai H, Osuka Y, Kojima N, Abe T, Yamashita M, Obuchi SP, Ishizaki T, Fujiwara Y, ○Awata S, Toba K; IRIDE Cohort Study Investigators. Age- and sex-specific associations between sarcopenia severity and poor cognitive function among community-dwelling older adults in Japan: The IRIDE Cohort Study. *Front Public Health.* 2023 Apr 4;11:1148404. doi: 10.3389/fpubh.2023.1148404. PMID: 37081953; PMCID: PMC10110951.
- 25)Kikuchi K, Ooguchi T, Ikeuchi T, ○Awata S. Exploratory study on the factors related with the early detection of missing older persons with dementia living alone in Japan. *Geriatr Gerontol Int.* 2023 May;23(5):362-365. doi: 10.1111/ggi.14580. Epub 2023 Apr 11. PMID: 37039040.
- 26)Eda Hiro A, Okamura T, Arai T, Ikeuchi T, Ikeda M, Utsumi K, Ota H, Kakuma T, Kawakatsu S, Konagaya Y, Suzuki K, Tanimukai S, Miyanaga K, ○Awata S. Initial symptoms of early-onset dementia in Japan: nationwide survey. *Psychogeriatrics.* 2023 May;23(3):422-433. doi: 10.1111/psyg.12949. Epub 2023 Feb 22. PMID: 36814116.
- 27)Okamura T, Taga T, Inagaki H, Miyamae F, Ura C, Sugiyama M, Eda Hiro A, Shirobe M, Motokawa K, Kojima N, Osuka Y, Iwasaki M, Sasai H, Hirano H, ○Awata S. Barrier to sharing a dementia diagnosis with neighbors in Tokyo. *Geriatr Gerontol Int.* 2023 Oct;23(10):761-763. doi: 10.1111/ggi.14662. Epub 2023 Sep 11. PMID: 37691496.
- 28)Abe T, Yamashiro D, Yamashita M, Ueda T, Suzuki H, Fujiwara Y, ○Awata S, Toba K; IRIDE Cohort Study investigators. Assessments of cognitive function of older adults in community general support centers: The IRIDE cohort study. *Geriatr Gerontol Int.* 2023 Nov;23(11):887-888. doi: 10.1111/ggi.14677. Epub 2023 Sep 21. PMID: 37735093.
- 29)Kikuchi K, Ikeuchi T, ○Awata S. A study on the incidence rate of missing persons with dementia living alone in Chiba prefecture, Japan. *Geriatr Gerontol Int.* 2023 Nov;23(11):890-891. doi: 10.1111/ggi.14695. Epub 2023 Oct 12. PMID: 37823231.
- 30)Murayama H, Sugiyama M, Inagaki H, Ura C, Miyamae F, Eda Hiro A, Motokawa K, Okamura T, ○Awata S. The Relationship Between Cognitive Decline and All-Cause Mortality Is Modified by Living Alone and a Small Social Network: A Paradox of Isolation. *J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci.* 2023 Nov 14;78(11):1927-1934. doi:

- 10.1093/geronb/gbad134. PMID: 37725961.
- 31)Mitsutake S, Yano S, Ishizaki T, Furuta K, Hatakeyama A, Sugiyama M, ○ Awata S, Ito H, Toba K. Association of functional and cognitive impairment severity with discharge to long-term care facilities in older patients admitted to a general acute care hospital from home. Arch Gerontol Geriatr. 2023 Dec;115:105111. doi: 10.1016/j.archger.2023.105111. Epub 2023 Jun 26. PMID: 37421690.
- 32)Edahiro A, Okamura T, Arai T, Ikeuchi T, Ikeda M, Utsumi K, Ota H, Kakuma T, Kawakatsu S, Konagaya Y, Suzuki K, Tanimukai S, Miyanaga K, ○ Awata S. What happens if your colleague was the first person to notice that you have young-onset dementia? Geriatr Gerontol Int. 2024 Jan;24(1):176-178. doi: 10.1111/ggi.14733. Epub 2023 Nov 21. PMID: 37990422; PMCID: PMC11503593.
- 33)Katsumata Y, Toyoshima K, Tamura Y, Murao Y, Sato M, Watanabe S, Koderu R, Oba K, Ishikawa J, Chiba Y, ○ Awata S, Araki A. Categorization using the Dementia Assessment Sheet for Community-Based Integrated Care System 8-items (DASC-8) based on cognitive function and activities of daily living predicts frailty, disability and mortality in older adults. Geriatr Gerontol Int. 2024 Mar;24 Suppl 1:150-155. doi: 10.1111/ggi.14715. Epub 2023 Oct 23. PMID: 37872859.
- 34)Ura C, Inagaki H, Sugiyama M, Miyamae F, Edahiro A, Ito K, Iwasaki M, Sasai H, Okamura T, Hirano H, ○ Awata S. A neighbour to consult with is important in dementia-friendly communities: associated factors of self-efficacy allowing older adults to continue living alone in community settings. Psychogeriatrics. 2024 Mar;24(2):518-520. doi: 10.1111/psyg.13054. Epub 2023 Dec 5. PMID: 38050759; PMCID: PMC11578028.
- 35)Hatanaka S, Sasai H, Shida T, Osuka Y, Kojima N, Ohta T, Abe T, Yamashita M, Obuchi SP, Ishizaki T, Fujiwara Y, ○Awata S, Toba K; IRIDE Cohort Study investigators. Association between dynapenia and cognitive decline in community-dwelling older Japanese adults: The IRIDE Cohort Study. Geriatr Gerontol Int. 2024 Mar;24 Suppl 1:123-129. doi:10.1111/ggi.14749. Epub 2023 Dec 20. PMID: 38116709.
- 36)Matsui H, Tamura T, Okamura T, Sugihara G, Furuta K, Omori Y, Kameyama M, ○Awata S, Takeuchi T, Takahashi H. Indicative biomarkers of Lewy body disease with oral sensory hallucinations in the older people. PCN Rep. 2024 Jan 31;3(1):e171. doi: 10.1002/pcn5.171. PMID: 38868468; PMCID: PMC11114429.
- 37)Kikuchi K, Ikeuchi T, ○Awata S. Estimation of the number of missing

older persons with dementia in Japan. *Geriatr Gerontol Int.* 2024 May;24(5):499-501. doi: 10.1111/ggi.14863. Epub 2024 Apr 10. PMID: 38597071.

38) Shimizu R, Ishikawa J, Jyubishi C, Futami S, Morozumi A, Saito Y, Komatsu S, Toba A, Ishiyama T, Fujimoto H, Usui S, Tuboko Y, OAwata S, Harada K. DASC-21 score and the risk of in-hospital death in elderly patients with heart failure. *Geriatr Gerontol Int.* 2024 Jun;24(6):546-553. doi: 10.1111/ggi.14880. Epub 2024 May 4. PMID: 38703082.

39) Ura C, Wakui T, Kugimiya Y, Okamura M, Yamamura M, Okado H, Kaneko M, Yamashita M, OAwata S, Okamura T. Having a consultation partner, including relatives, and the well-being of older people living with cognitive decline: Both sides of the story. *Psychogeriatrics.* 2024 Sep;24(5):1173-1175. doi: 10.1111/psyg.13159. Epub 2024 Jul 1. PMID: 38951714.

40) Sato K, Niimi Y, Ihara R, Iwata A, Suzuki K, Nemoto K, Arai T, Higashi S, Igarashi A, Kasuga K, OAwata S, Iwatsubo T. Public perceptions related to healthcare preparedness to anti-amyloid therapies for Alzheimer's Disease in Japan. *Alzheimers Res Ther.* 2024 Oct 3;16(1):205. doi: 10.1186/s13195-024-01568-8. PMID: 39358780; PMCID: PMC11448067.

41) Shimizu R, Ishikawa J, Jyubishi C, Toba A, Futami S, Morozumi A, Saito Y, Komatsu S, Fujimoto H, Ishiyama T, Usui S, Tuboko Y, OAwata S, Akishita M, Harada K. DASC-21 score and risk of rehospitalization and all-cause mortality after discharge in older patients with heart failure. *Geriatr Gerontol Int.* 2024 Nov;24(11):1130-1136. doi: 10.1111/ggi.14975. Epub 2024 Oct 1. PMID: 39353571.

42) Imamura K, Kawai H, Ejiri M, Abe T, Yamashita M, Sasai H, Obuchi S, Suzuki H, Fujiwara Y, OAwata S, Toba K; IRIDE Cohort Investigators. Association of the combination of social isolation and living alone with cognitive impairment in community-dwelling older adults: The IRIDE Cohort Study. *Arch Gerontol Geriatr.* 2024 Dec;127:105571. doi: 10.1016/j.archger.2024.105571. Epub 2024 Jul 9. PMID: 39002518.

【武田章敬】

1) Kinjo Y, Saji N, Murotani K, Sakima H, OTakeda A, Sakurai T, Ohya Y, Kusunose K, Enlarged Perivascular Spaces Are Independently Associated with High Pulse Wave Velocity: A Cross-Sectional Study, *J Alzheimers Dis.* 2024 Aug 24, 101(2), 627-636.
2) Saji N, Kinjo Y, Murotani K, Niida S, OTakeda A, Sakurai T, High pulse wave velocity is associated with

- enlarged perivascular spaces in dementia with Lewy bodies, *Sci Rep*, 2024 Jun 17, 14(1), 13911.
- 3) Yasuno F, Kimura Y, Ogata A, Ikenuma H, Abe J, Minami H, Nihashi T, Yokoi K, Hattori S, Shimoda N, Watanabe A, Kasuga K, Ikeuchi T, ○ Takeda A, Sakurai T, Ito K, Kato T, Trait-anxiety and glial-related neuroinflammation of the amygdala and its associated regions in Alzheimer's disease: A significant correlation, *Brain Behav Immun Health*, 2024 May 14, 38, 100795.
- 4) Saji N, Ishihara Y, Murotani K, Uchiyama A, ○Takeda A, Sakurai T, Matsushita K, Cross-sectional analysis of periodontal disease and cognitive impairment conducted in a memory clinic: the Pearl study, *J Alzheimers Dis*, 2023, 96(1), 369-380.
- 5) Yasuno F, Kimura Y, Ogata A, Ikenuma H, Abe J, Minami H, Nihashi T, Yokoi K, Hattori S, Shimoda N, Watanabe A, Kasuga K, Ikeuchi T, ○ Takeda A, Sakurai T, Ito K, Kato T, Neuroimaging biomarkers of glial activation for predicting the annual cognitive function decline in patients with Alzheimer's disease, *Brain Behav Immun*, 2023 Nov, 114, 214-220.
- 6) Yasuno F, Kimura Y, Ogata A, Ikenuma H, Abe J, Minami H, Nihashi T, Yokoi K, Hattori S, Shimoda N, Watanabe A, Kasuga K, Ikeuchi T, ○ Takeda A, Sakurai T, Ito K, Kato T, Involvement of inflammation in the medial temporal region in the development of agitation in Alzheimer's disease: an in vivo positron emission tomography study, *Psychogeriatrics*, 2023 Jan, 23(1), 126-135.
- 7) ○武田章敬, 認知症の包括的診療のポイント, 名古屋内科医会会誌, 2023, 163, 3-20.
- 8) ○武田章敬, 認知症診断のポイント, 月刊 臨床画像, 2023, 39 (8), 854-861.
- 9) Yasuno F, Watanabe A, Kimura Y, Yamauchi Y, Ogata A, Ikenuma H, Abe J, Minami H, Nihashi T, Yokoi K, Hattori S, Shimoda N, Kasuga K, Ikeuchi T, ○ Takeda A, Sakurai T, Ito K, Kato T, Estimation of blood-based biomarkers of glial activation related to neuroinflammation, *Brain Behav Immun Health*, 2022 Nov 5, 26, 100549.
- 10) Fujisawa C, Saji N, ○Takeda A, Kato T, Nakamura A, Sakurai K, Asanomi Y, Ozaki K, Takada K, Umegaki H, Kuzuya M, Sakurai T, Early-onset Alzheimer's Disease Associated with Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder, *Alzheimer Dis Assoc Disord*, 2022 Jul 18. doi: 10.1097/WAD.0000000000000517.
- 11) Nihashi T, Sakurai K, Kato T, Iwata K, Kimura Y, Ikenuma H, Yamaoka A, ○Takeda A, Arahata Y, Washimi Y, Suzuki K, Bundo M, Sakurai T, Okamura N, Yanai K, Ito K, Nakamura A, Mulniad Study Group, Patterns of Distribution

of 18F-THK5351 Positron Emission Tomography in Alzheimer's Disease Continuum, J Alzheimers Dis, 2022, 85(1), 223-34.

12) ○武田章敬, 多職種連携による認知症初期集中支援—その効果と課題—, 公衆衛生, 2022, 86 (10), 870-878.

13) ○武田章敬, 地域包括ケア, 臨床雑誌内科, 2022, 129 (6), 1295-1297.

<研究課題に関連した実務活動>

1) ○武田章敬 ナショナルセンターにおける“もの忘れ外来” 第41回日本認知症学会学術集会・第37回日本老年精神医学会 シンポジウム32 もの忘れ外来の今, 2022年11月26日, 東京.

2) ○武田章敬 国立長寿医療研究センターにおける若年性認知症への取り組み. 2022年度 第1回かかりつけ医及び医療・福祉・介護関係従事者研修会, 2022年7月9日, 犬山市.

3) ○武田章敬 令和4・5年度愛知県若年性認知症自立支援ネットワーク会議およびワーキンググループ 委員長.

4) ○武田章敬 認知症の最新治療とこれからの認知症介護について.

(ア)大府市 認知症サポーターフォローアップ講座, 2023年11月15日, 大府市.

5) ○武田章敬 認知症とともに生きる.

(ア)健康フェスタ(岐阜県立多治見病院), 2023年9月16日, 多治見市/Web.

6) ○武田章敬 認知症診療におけるかかりつけ医と専門医の役割.

(ア)令和5年度認知症サポート医・認知症相談医フォローアップ研修会(滋賀県健康医療福祉部主催), 2023年9月14日, 草

津市.

7) ○Akinori Takeda, Shuichi Awata, Shinya Ishii, Koichiro Sakoda, Akira Shindo, Hidekazu Tomimoto, Aiko Tomono, Yoshiki Niimi, Koichiro Mine, Yukihiro Washimi.

(ア)Effects of Countermeasures to Minimize Unfavorable Influences of COVID-19 Prevention Measures on Residents with Dementia in Long-Term Care Settings in Japan.

(イ)IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, 2023.6.13.Yokohama Japan.

8) 武田章敬 認知症の人と共に暮らす.

(ア)第31回日本医学会総会学術集会 市民向けセッション, 2023年4月22日, 東京.

9) 武田章敬 認知症の包括的診療のポイント.

(ア)名古屋内科医会第593回例会 学術講演, 2023年4月15日, 名古屋市.

【齊藤 千晶】

1) ○齊藤千晶:特集 認知症基本法と作業療法-共生社会において個性と能力が発揮できる支援-若年性認知症の人の就労に関する調査から. 作業療法ジャーナル 58(11), 1065-1071, 2024

2) ○齊藤千晶, 李相侖, 山口友佑, 鷺見幸彦. 地域包括支援センターの若年性認知症者への支援-支援コーディネーターとの連携-. 日本認知症学会誌, vol. 38, 165, 2024

3) ○齊藤千晶, 李相侖, 山口友佑, 工藤純平, 鷺見幸彦:市町村における若年性認

知症の人の支援推進に必要な方策の検討－若年性認知症支援コーディネーターの視点から－. 日本認知症ケア学会誌, vol. 23-1, 240, 2024

4) 李相倫, ○齊藤千晶, 山口友佑, 工藤純平, 鷺見幸彦: 地域包括支援センターにおける若年性認知症を有する者の社会参加の支援状況－困難や他施設連携との関連－. 日本認知症ケア学会誌, vol. 23-1, 241, 2024

5) Tomohiro Kogata, ○Chiaki Saito, Fukiko Kato, Jumpei Kudo, Yusuke Yamaguchi, Sangyoon Lee, Yukihiro Washimi.: An analysis of the contents of the young-onset dementia helpline: profiles of clients who consulted the helpline themselves. Psychogeriatrics: the official journal of the Japanese Psychogeriatric Society, 2024

6) ○齊藤千晶: 令和6年度版障害者職業生活相談員資格認定講習会テキスト 第3章 第8節 3 若年性認知症. 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用機構, 207-213, 2024

7) ○齊藤千晶: 若年性認知症支援コーディネーターの配置状況と活動内容. 一般社団法人新情報センター機関誌, 2023, vol. 111, 23-31

8) ○齊藤千晶, 山口友佑, 小方智広, 鷺見幸彦: 若年性認知症支援コーディネーターと市町村の支援関係者との連携時の課題把握. 日本認知症ケア学会誌, 2023, vol. 22-1, 221

9) 小方智広, ○齊藤千晶, 加藤ふき子, 工藤純平, 山口友佑, 鷺見幸彦: 若年性認

知症の相談窓口における初回相談の特徴－アソシエーションルール分析による相談者像の探索－. 日本認知症ケア学会誌, 2023, vol. 22-1, 181

10) 工藤純平, ○齊藤千晶, 山口友佑: 認知症の人の社会参加を促進するための周囲の環境や職員個人的要因の探索－介護老人保健施設で働く作業療法士へのアンケート調査－. 日本認知症ケア学会誌, 2023, vol. 22-1, 232

11) 山口友佑, ○齊藤千晶, 青木裕未, 朝倉寛史, 片山清貴, 形山健次, 福井梨恵, 松浦慎介, 吉野英樹, 分見民雄: ケア現場における研究活動実施のための支援ツール手引書の効果検証に関する研究. 日本認知症ケア学会誌, 2023, vol. 22-1, 176

12) ○齊藤千晶、小長谷陽子. 企業における若年性認知症の従業員への対応と課題. 厚生指針, 2022, 69 (5) 7-14.

(ア)小長谷陽子, ○齊藤千晶. 就労継続支援事業所を利用する若年性認知症の人の実態. 厚生指針, 2021, 68 (5) 20-27

13) 水野純平, 西浦裕子, ○齊藤千晶, 小長谷陽子, 井上剛伸. 認知機能の低下した高齢者に対するタブレット版「いきいきリハビリ」の有効性の検討. 作業療法, 2021, 40(3) 311-318

【表 志津子】

1) 横山美千代, ○表志津子, 岡本理絵, 高橋裕太郎: 保健師による発達障害児の行動特性の捉えと支援の実態, 小児保健研究, 2023, 82(2):154-164.

2) 坂本幸恵, ○表志津子, 岡本理絵, 高橋裕太郎, 池内里美: 高齢者の退院支援における地域包括ケア病棟看護師と介護支援専

- 門員の連携活動の実態と認識の特徴, 日本在宅医療連合学会誌, 2023, 4(2), 22-31.
- 3)○Shizuko Omote, Satomi Ikeuchi, Rie Okamoto, Yutaro Takahashi, Yoshiko Koyama: Experience with Support at Workplaces for People with Young Onset Dementia: A Qualitative Evaluation of Being Open about Dementia, *Int. J. Environ. Res. Public Health*, 2023, 20(13), 6235;
<https://doi.org/10.3390/ijerph20136235>
- 4)濱田珠里, ○表志津子, 岡本理絵, 池内里美, 高橋裕太郎: 若年性認知症支援コーディネーターの一般就労継続支援における医療機関と企業との連携の実態, *看護実践学会誌*, 2023, 35(2), 8-17.
- 5)池内里美, 岡本理絵, ○表志津子, 田中浩二, 高橋裕太郎, 入谷敦, 丸山美虹, 濱田珠里: 若年性認知症の人の就労を支援するための学習プログラム開発における成果と課題研修参加者の就労支援行動の変化と学習プログラムの評価から, 2023, *看護実践学会誌*, 2023, 35(2), 18-28.
- 6)Kimi Sugiyama, ○Shizuko Omote, Rie Okamoto: Experiences of Japanese women simultaneously caring for children and older people: An ethnographic study, *Heliyon* 9, 2023, e20375,
<https://doi.org/10.1016/j.heliyon.2023.e20375>
- 7)斉藤恵美子, 神崎由紀, ○表志津子, 村田加奈子: 地域包括支援センター看護職の倫理的ジレンマと倫理的行動の特徴, *日本公衆衛生雑誌*, 2023, 70(12), 836-851.
<https://doi.org/10.11236/jph.22-130>
- 8)Satomi Ikeuchi, ○Shizuko Omote, Koji Tanaka, et al. Work-related Experiences of People With Young Onset Dementia in Japan. *Health & Social Care in the Community*. 2022; 30(2):548-557
- 9)Mayumi Hirota, ○Shizuko Omote, Rie Okamoto. Practical Wisdom of Discharge Planning Nurses in Consensus Building of Advanced Cancer Patients and Their Families: A Qualitative Descriptive Study. *Journal of Wellness and Health Care*. 2022;46(2):13-23
- 10)○表志津子. 若年性認知症と診断された従業員の就労継続に関わる現状と課題 職域での若年性認知症への対応. *産業医学ジャーナル*. 2022;45(3):8-13
- 11)Chikako Michibayashi, Masakazu Nakamura, ○Shizuko Omote: Identifying Training Needs for Tobacco Control: A Cross-sectional Study of Local Public Health Nurses in Japan, *Medical Science and Educational Research*, 18, 41-46, 2024.
- 12)Kaori Nishimura, Rie Okamoto, ○Shizuko Omote, Yuka Kitajima, Hiromi Matsui :Pregnant women of concern as identified by proficient and expert midwives and public health nurses in Japan: A qualitative descriptive study, *Journal of Wellness and Health Care*. 48 (2), 2024
- 13)Yuko Noguchi Rie Okamoto, ○Shizuko Omote, Satomi Ikeuchi, Noriko Hirasawa: Factors associated with disaster preparedness among caregivers of infants and toddlers: a cross-

sectional study, Journal of Wellness and Health Care. 48(2)2024

＜研究課題に関連した実務活動＞

1)第 22 回 大府センター 認知症ケアセミナー, 若年性認知症の人と家族への支援～一般就労継続を支える～, 2024. 7. 23, 名古屋

2)若年性認知症の方の就労支援について ; 平成 6 年度若年性認知症セミナー, 2025. 2. 3～ Onlone、埼玉県

3)高橋裕太郎、表志津子、岡本理恵、池内里美 : 若年性認知症と診断された従業員の就労及び支援体制の実態, 日本公衆衛生看護学会、2025. 1. 4-5、Online

【李相侖】

1) Kogata T, Saito C, Kato F, Kudo J, Yamaguchi Y, ○Lee S, Washimi Y. An analysis of the contents of the young-onset dementia helpline: profiles of clients who consulted the helpline themselves. Psychogeriatrics, 24(3):617-626, 2024.

2)Tomida K, ○Lee S, Makino K, Katayama O, Harada K, Morikawa M, Yamaguchi R, Nishijima C, Fujii K, Misu Y, Shimada H. Association between Hearing Aid Use and Cognitive Function in Persons with Hearing Impairment Stratified by Cardiovascular Risk. J Pers Med, 14(5): 479, 2024.

3)Katayama O, Stern Y, Habeck C, Coors A, ○ Lee S, Harada K, Makino K, Tomida K, Morikawa M, Yamaguchi R, Nishijima C, Misu Y, Fujii K, Kodama T, Shimada H. Detection of

neurophysiological markers of cognitive reserve: an EEG study. Front Aging Neurosci, 16: 1401818, 2024.

4)Makino K, Raina P, Griffith LE, ○Lee S Harada K, Katayama O, Tomida K, Morikawa M, Yamaguchi R, Nishijima C, Fujii K, Misu Y, Shimada H. Lifetime Physical Activity and Late-Life Mild Cognitive Impairment in Community-Dwelling Older Adults. J Am Med Dir Assoc, 25(3): 488-493 e3, 2024.

5)Nishijima C, Katayama O, ○Lee S, Makino K, Harada K, Morikawa M, Tomida K, Yamaguchi R, Fujii K, Misu Y, Shimada H. Association between the perceived value of adopting new behaviors and depressive symptoms among older adults. Sci Rep, 14(1): 4569, 2024.

6)Makino K, Raina P, Griffith LE, ○Lee S, Harada K, Chiba I, Katayama O, Tomida K, Morikawa M, Makizako H, Shimada H. Physical frailty and survival time after the onset of functional disability: Is there a sex difference? J Am Geriatr Soc, 72(2): 399-409, 2024.

7)Katayama O, Stern Y, Habeck C, ○Lee S, Harada K, Makino K, Tomida K, Morikawa M, Yamaguchi R, Nishijima C, Misu Y, Fujii K, Kodama T, Shimada H. Neurophysiological markers in community-dwelling older adults with mild cognitive impairment: an EEG study. Alzheimers Res Ther, 15(1): 217, 2023.

- 8) Morikawa M, Lee S, Makino K, Harada K, Katayama O, Tomida K, Yamaguchi R, Nishijima C, Fujii K, Misu Y, Shimada H. Social isolation and risk of disability in older adults: Effect modification of metabolic syndrome. *Arch Gerontol Geriatr*, 116: 105209, 2024.
- 9) Bae S, Shimada H, Lee S, Makino K, Chiba I, Katayama O, Harada K, Park H, Toba K. Subjective Cognitive Decline and Frailty Trajectories and Influencing Factors in Japanese Community-Dwelling Older Adults: A Longitudinal Study. *J Clin Med*, 12(18): 5803, 2023.
- 10) Sugimoto T, Sakurai T, Noguchi T, Komatsu A, Nakagawa T, Ueda I, Osawa A, Lee S, Shimada H, Kuroda Y, Fujita K, Matsumoto N, Uchida K, Kishino Y, Ono R, Arai H, Saito T. Developing a predictive model for mortality in patients with cognitive impairment. *Int J Geriatr Psychiatry*, 38(11): e6020, 2023.
- 11) Misu Y, Katayama O, Lee S, Makino K, Harada K, Tomida K, Morikawa M, Yamaguchi R, Nishijima C, Fujii K, Shimada H. Reciprocal relationship between physical and social frailty among community-dwelling older adults. *Arch Gerontol Geriatr*, 114: 105066, 2023.
- 12) Fujii K, Lee S, Katayama O, Makino K, Harada K, Tomida K, Morikawa M, Yamaguchi R, Nishijima C, Misu Y, Shimada H. Difference in employment status and onset of disability among Japanese community-dwelling older adults: a prospective cohort study. *Int Arch Occup Environ Health*, 96(9): 1225-1234, 2023.
- 13) Katayama O, Lee S, Bae S, Makino K, Chiba I, Harada K, Shinkai Y, Shimada H. Differential effects of lifestyle activities on disability incidence based on neighborhood amenities. *BMC Geriatr*, 23(1): 483, 2023.
- 14) Morikawa M, Lee S, Makino K, Harada K, Katayama O, Tomida K, Yamaguchi R, Nishijima C, Fujii K, Misu Y, Shimada H. Information and Communication Technology Use for Alleviation of Disability Onset in Socially Isolated Older Adults: A Longitudinal Cohort Study. *Gerontology*, 69(5): 641-649, 2023.
- 15) Tomida K, Lee S, Makino K, Katayama O, Harada K, Morikawa M, Yamaguchi R, Nishijima C, Fujii K, Misu Y, Shimada H. Association of Loneliness With the Incidence of Disability in Older Adults With Hearing Impairment in Japan. *JAMA Otolaryngol Head Neck Surg*, 149(5): 439-446, 2023.
- 16) Shimada H, Suzuki T, Doi T, Lee S, Nakakubo S, Makino K, Arai H. Impact of osteosarcopenia on disability and mortality among Japanese older adults. *J Cachexia*

- Sarcopenia Muscle, 14(2): 1107–1116, 2023.
- 17) Lee S, Harada K, Bae S, Harada K, Makino K, Anan Y, Suzuki T, Shimada H. A non-pharmacological multidomain intervention of dual-task exercise and social activity affects the cognitive function in community-dwelling older adults with mild to moderate cognitive decline: A randomized controlled trial. *Front Aging Neurosci*, 15: 1005410, 2023.
- 18) Miyano I, Bae S, Lee S, Shimada H, Kitaoka H. Association between simple test assessing hand dexterity and mild cognitive impairment in independent older adults. *Int J Geriatr Psychiatry*, 38(1): e5862, 2023.
- 19) Seo K, Takayanagi N, Sudo M, Yamashiro Y, Chiba I, Makino K, Lee S, Niki Y, Shimada H. Association between daily gait speed patterns and cognitive impairment in community-dwelling older adults. *Sci Rep*, 13(1): 2783, 2023.
- 20) Shimada H, Bae S, Harada K, Makino K, Chiba I, Katayama O, Lee S. Association between driving a car and retention of brain volume in Japanese older adults. *Exp Gerontol*, 171: 112010, 2022.
- 21) Katayama O, Lee S, Bae S, Makino K, Chiba I, Harada K, Morikawa M, Tomida K, Shimada H. A simple algorithm to predict disability in community-dwelling older Japanese adults. *Arch Gerontol Geriatr*, 103: 104778, Nov-Dec, 2022.
- 22) Katayama O, Lee S, Bae S, Makino K, Chiba I, Harada K, Morikawa M, Tomida K, Shimada H. Differences in Subjective and Objective Cognitive Decline Outcomes Are Associated with Modifiable Protective Factors: A 4-Year Longitudinal Study. *J Clin Med*, 11(24): 7441, 2022.
- 23) Shiratsuchi D, Makizako H, Nakai Y, Bae S, Lee S, Kim H, Matsuzaki-Kihara Y, Miyano I, Ota H, Shimada H. Associations of fall history and fear of falling with multidimensional cognitive function in independent community-dwelling older adults: findings from ORANGE study. *Aging Clin Exp Res*, 34(12): 2985–2992, 2022.
- 24) Katayama O, Lee S, Bae S, Makino K, Chiba I, Harada K, Shinkai Y, Shimada H. The association between social activity and physical frailty among community-dwelling older adults in Japan. *BMC Geriatr*, 22(1): 870, 2022.
- 25) Tomida K, Lee S, Bae S, Harada K, Katayama O, Makino K, Chiba I, Morikawa M, Shimada H. Association of Dual Sensory Impairment with Cognitive Decline in Older Adults. *Dement Geriatr Cogn Disord*, 51(4): 322–330, 2022.
- 26) Makino K, Lee S, Bae S, Harada K, Chiba I, Katayama O, Tomida K,

- Morikawa M, Yamashiro Y, Sudo M, Takayanagi N, Shimada H. Light intensity physical activity is beneficially associated with brain volume in older adults with high cardiovascular risk. *Front Cardiovasc Med*, 9: 882562, 2022.
- 27) Morikawa M, Lee S, Makino K, Bae S, Chiba I, Harada K, Tomida K, Katayama O, Shimada H. Association of social isolation and smartphone use on cognitive functions. *Arch Gerontol Geriatr*, 101: 104706, 2022.
- 28) Shimada H, Doi T, Lee S, Tsutsumimoto K, Bae S, Makino K, Nakakubo S, Arai H. Identification of Disability Risk in Addition to Slow Walking Speed in Older Adults. *Gerontology*, 68(6): 625–634, 2022.
- 29) Shimada H, Lee S, Harada K, Bae S, Makino K, Chiba I, Katayama O, Arai H. Study Protocol of a Comprehensive Activity Promotion Program for the Prevention of Dementia: A Randomized Controlled Trial Protocol. *J Prev Alzheimers Dis*, 9(2): 376–384, 2022.
- 30) Song Z, Park H-J, Thapa N, Yang J-G, Harada K, Lee S, Shimada H, Park H, Park B-K. Carrying Position-Independent Ensemble Machine Learning Step-Counting Algorithm for Smartphones. *Sensors*, 22(10): 3736, 2022.
- 31) Chiba I, Lee S, Bae S, Makino K, Shinkai Y, Katayama O, Harada K, Yamashiro Y, Takayanagi N, Shimada H. Isotemporal Substitution of Sedentary Behavior With Moderate to Vigorous Physical Activity Is Associated With Lower Risk of Disability: A Prospective Longitudinal Cohort Study. *Phys Ther*, 102(5): pzac002, 2022.
- 32) Kume Y, Kodama A, Takahashi T, Lee S, Makizako H, Ono T, Shimada H, Ota H. Social frailty is independently associated with geriatric depression among older adults living in northern Japan: A cross-sectional study of ORANGE registry. *Geriatr Gerontol Int*, 22(2): 145–151, 2022.
- 33) Makino K, Lee S, Bae S, Chiba I, Harada K, Katayama O, Shinkai Y, Shimada H. Absolute Cardiovascular Disease Risk Assessed in Old Age Predicts Disability and Mortality: A Retrospective Cohort Study of Community-Dwelling Older Adults. *J Am Heart Assoc*, 10(24): e022004, 2021.
- 34) Chiba I, Lee S, Bae S, Makino K, Shinkai Y, Katayama O, Harada K, Takayanagi N, Shimada H. Difference in sarcopenia characteristics associated with physical activity and disability incidences in older adults. *J Cachexia Sarcopenia Muscle*, 12(6): 1983–1994, 2021.
- 35) Kume Y, Bae S, Lee S, Makizako H, Matsuzaki-Kihara Y, Miyano I, Kim H, Shimada H, Ota H. Association between Kihon check list score and geriatric depression among older adults from ORANGE registry. *PLoS One*, 16(6):

e0252723, 2021.

36)Katayama O, ○Lee S, Bae S, Makino K, Chiba I, Harada K, Morikawa M, Tomida K, Shimada H. Association between Non-Face-to-Face Interactions and Incident Disability in Older Adults. J Nutr Health Aging, 26(2): 147-152, 2022.

37)Kodama A, Kume Y, ○Lee S, Makizako H, Shimada H, Takahashi T, Ono T, Ota H. Impact of COVID-19 Pandemic Exacerbation of Depressive Symptoms for Social Frailty from the ORANGE Registry. Int J Environ Res Public Health, 19(2): 986, 2022.

38)Katayama O, ○Lee S, Bae S, Makino K, Chiba I, Harada K, Morikawa M, Tomida K, Shimada H. Are non-face-to-face interactions an effective strategy for maintaining mental and physical health?. Arch Gerontol Geriatr, 98: 104560, 2022.

学会発表

1)○李相侖, 齊藤千晶, 山口友佑, 工藤純平, 鷺見幸彦. 地域包括支援センターにおける若年性認知症を有する者の社会参加の支援状況：困難や他施設連携との関連. 第25回日本認知症ケア学会大会, 東京都, 2024年6月16日. 口述発表.

2)齊藤千晶, ○李相侖, 山口友佑, 鷺見幸彦. 地域包括支援センターの若年性認知症者への支援：支援コーディネーターとの連携. 第25回日本認知症ケア学会大会, 東京都, 2024年6月16日. 口述発表.

3)福永一雄, 浦上幸久, 沖友香, 齊藤千

晶, 山口友佑, ○李相侖, 鷺見幸彦. 通所介護施設の有償ボランティアプログラム実施に向けての課題：いずみテラスの活動.

第25回日本認知症ケア学会大会, 東京都, 2024年6月16日. 口述発表.

4)山口友佑, 齊藤千晶, 工藤純平, ○李相侖, 鷺見幸彦. 認知症介護指導者養成研修におけるアウトカム評価を目的とした指導者活動実態調査. 第25回日本認知症ケア学会大会, 東京都, 2024年6月16日. 口述発表.

5)工藤純平, ○李相侖, 齊藤千晶, 山口友佑, 鷺見幸彦. 認知症の人の社会参加に向けたリハビリテーション介入実施に対する影響要因の探索的検討：作業療法士及び施設環境による影響の探索. 第25回日本認知症ケア学会大会, 東京都, 2024年6月15日. 口述発表.

6) ○李相侖, 牧野圭太郎, 原田健次, 富田浩輝, 片山脩, 森川将徳, 藤井一弥, 島田裕之. 地域高齢者のライフイベントの発生率とフレイルの関連. 第66回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024年6月14日. ポスター発表.

7)牧野圭太郎, ○李相侖, 片山脩, 富田浩輝, 山口亨, 山際大樹, 島田裕之. 地域高齢者の認知症発症に対するNCGG-IADLスケールの予測妥当性の検証. 第3回日本老年療法学会学術集会, 札幌市, 2024年8月3日. ポスター発表.

8)牧野圭太郎, ○李相侖, 富田浩輝, 片山脩, 山口亨, Georg von Fingerhut, 山際大樹, 島田裕之. 高齢期の認知機能とヘルスリテラシーが認知症発症リスクに及ぼす影響. 第66回日本老年医学会学術集会, 名古屋市, 2024年6月14日. 口述発表.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし